

幼稚園でおいもパーティをしよう

○11月9日（水） みんなでおいもパーティをしよう

1年生からおいもパーティに招待してもらったうれしい経験から、幼稚園で収穫したさつまいもで「1年生がしてくれたおいもパーティがしたい。」という思いが出され、幼稚園でおいもパーティをするために話し合いをしながら準備することになった。

○11月16日（水） おいもパーティの準備をしよう

ねらい みんなで共通の目的をもって活動に取り組む楽しさを味わう。

幼児の姿・活動	○教師の援助☆環境構成	※考察 ◎学びの深まり
<p>・おいもパーティの前日に自分たちで準備をするため話し合いをする。</p> <p>T：「明日はおいもパーティです。みんなでどんなこと準備できるかな？」</p> <p>A児：「（1年生みたいに）砂糖とバターかけたらいい。」</p> <p>T：「そうやな。それやったら、あお組さんでできるなあ。」</p> <p>B児「できたポテト入れたり運んだりする。」</p> <p>C児「机いるんちがう？」</p> <p>D児：「リズム室で食べて、あか組さんともも組さん呼んだらどう？」</p> <p>幼児たち：「それいいなあ。」「きてもらおう。」</p> <p>T：「あか組さんともも組さん、きっと喜ぶと思う。お客さん来るから素敵にしたらどう？」</p> <p>E児「前のカレーパーティーみたいにかわいいシート（テーブルクロス）したらいいと思う。」</p> <p>幼児たち「思い出した。あのシートやな。」</p> <p>「いいやん。」</p> <p>D児「椅子もいるなあ。」</p> <p>など様々な役割や仕事について話し合った。</p>	<p>○自分たちでできる準備はどんなことがあるのか、考えられるようにする。</p> <p>☆子ども達が出した内容が分かるようホワイトボードに書く。</p> <p>○パーティーらしくなるようヒントを出す。</p> <p>☆ホワイトボードに書いておき、当日も主体的に活動できるようにしておく。</p>	<p>※1年生に教えてもらったスティックポテトづくりを思い出しているようだ。</p> <p>※自分のできそうな仕事を考えている。</p> <p>◎1年生にしてもらってうれしかったことを小さい組の友達にもしてあげたいという思いやりの気持ちが見られる。（豊かな感性と表現）</p> <p>◎以前の経験が自分達で計画したり準備したりしようという意欲につながっている。（思考力）</p>
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>①テーブルにシートをかける。</p> <p>②机やいすを並べる。</p> <p>③いもに砂糖をかける。</p> <p>④できたスティックポテトを配る。</p> </div>		<p>※3，4歳児を招待し、よりパーティーが楽しくなるようにしたいという思いがうかがえる。</p>

○11月17日（木） おいもパーティをしよう
ねらい みんなでおいもパーティをすることを楽しむ。

幼児の姿・活動	○教師の援助☆環境構成	※考察 ◎学びの深まり
<p>・朝から楽しみにやってきた幼児たちは、「今日は、おいもパーティやな。」「おいも食べるの楽しみ！」と、友達同士で期待をもって話をしている姿が見られた。</p> <p>・リズム室に年中・年長児が一緒に入ってくる。 あか組を誘い、テーブルを決めてから、A児「もも組さん呼んでくるからここで待っててな。」 と言って、急いで年少児を誘いに行き、手をつないで連れて来る。 年中・年少児：「いいにおいするな。」 「早く食べたい。」 と、楽しそうに話す姿が見られた。</p> <p>それぞれの幼児が席に着いた。 A児「先生、ポテト配ってもいい？」 T：「自分のテーブルの友達の分をもって行こうね。」 と、教師が知らせた。 B児「Cちゃん二つ持って行って。Bも二つ持つから。」 と、同じテーブルの年長児と相談し、ポテトをもって行く姿が見られた。 D児「E（3歳児）ちゃんが食べられる（少ない）ポテトはどれかな。」 と、選んでいる幼児がいた。 ポテトを配り終わったので、司会の幼児が前に出て話をする。 当番：「今からおいもパーティをします。」 「あお組が作ったので食べてください。」 幼児たち：「はい。」 T：「あお組さんが一生懸命作ったスティックポテト、みんなで食べてね。」</p>	<p>○異年齢児と関わられるよう声をかける。</p>  <p>○友達や年少・年中児の分も一緒に配れるよう話す。</p>  <p>○幼児の姿を見守り、自分たちで進められるようにする。</p>	<p>※年少、年中児は年長児に関わってもらったりいもを食べたりすることに期待をもっている。 ※異年齢児の友達を誘い、年下の友達に優しく関わっている姿が見られる。 ※いつもと違う雰囲気の中で食べられるスティックポテトに期待をもっているようだ。</p> <p>◎自分たちで役割を考えて活動している。（自立心） ◎テーブルに6人が座っているので、どうするか相談し、自分たちなりの方法で配っている様子がうかがえる。（協同性） ※年下の友達に気を配っているようである。</p> <p>◎1年生と同じようにおいもパーティを進めようとし、自分なりの言葉で考えながら司会をしている。（自立心）</p>

当番：「いただきます。」

幼児たち：「いただきます。」



「おいしい。」「あまい。」「もっと食べたい。」など思いを出しながらおいしく食べる姿が見られた。

F児「おかわりほしい。」(年中児)

それを聞いた年長児は残っているスティックポテトの数を友達と数えて、1本ずつおかわりができることが分かった。

G児「1本ずつ食べればいいんじゃない？」

F児「おいしいね。」

と、他の幼児と一緒にスティックポテトを食べ、満足している様子であった。

○いもを味わったり友達と食べて喜んだりしている姿を受け止める。

○温かい雰囲気の中で、異年齢児がかかわったり親しみをもちながら食べられるようにする。



○幼児と共にポテトの数を数え、食べられるか一緒に考える。

※自分たちで作ったスティックポテトを味わいながら満足している。

※小さい組が喜んで食べている様子を見て、年長児もうれしそうにしている。

◎F児の思いを受けて、どうしたらいいか考えようとする姿が見られた。(思考力)

※G児が自分の考えをみんなに話し、それを認めてもらえたことや、友達が喜んでくれたことに満足している。

※G児の提案でみんながおかわりできたことに、幼児たちは満足感を味わった様子うかがえる。

《考察》

○様々な経験から考えたことや学んだことを生かし、活動に取り入れることができた。

○共通の目的をもつことで自分の役割や仕事を考えながら友達と話し合ったり協力し合ったりすることができ、それが意欲をもって主体的に活動に取り組むことができたのではないかと思われる。

○1年生との交流の中で自分たちが優しくかかわってもらったことが、自分たちも3・4歳児に経験させてあげたいという思いやりの気持ちにつながったのではないかと思われる。

○自分の思いを言葉で伝え合うことでイメージを共有することができ、より楽しい活動となった。

○友達と力を合わせてできた楽しい活動が、達成感や充実感につながり、意欲的に取り組んでいこうとする姿につながっていったと考える。

○自分の考えを言葉で伝えたり友達の思いを聞いたりしながら活動を進める楽しさを味わうことができた。

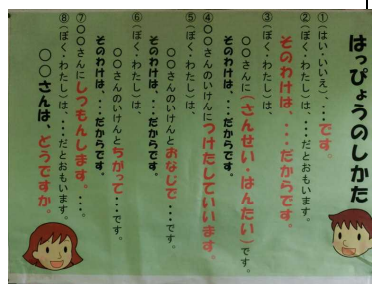
○活動を進める中で、数えたり分けたりする必要性を感じて取り組むことができた。

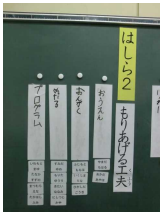

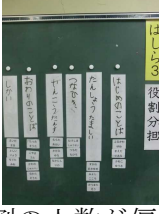


第5回学級会 議題「うんどうかいパーティをしよう」(9月29日)

運動会の後、1年1組で運動会パーティをしようという議題で学級会を行った。

〇めあて 1年1組のみんなが楽しめて、笑顔になる内容を考える。

児童の活動	教師の支援	学びの視点
<p>〇学級の歌を歌う。</p> <p>〇司会者グループが役割とめあてを言う。</p> <p>〇議題と提案理由を確認する。</p> <p>〇決まっていることを確認する。</p>	<p>〇進行表や黒板記録用の短冊、マグネットを事前に準備し、司会者グループに学級会をイメージさせる。</p> <p>〇集会のイメージをもたせる。</p>	<p>・話し合いに向けて、集会をイメージする。</p> <p>・みんなが楽しめることを考える。</p>
<p>〇はしら1：何をするか</p> <p>「全校ダンスです。」</p> <p>「全校ダンスに賛成です。みんなで踊ったら、楽しいからです。」</p> <p>「全校ダンスがいいです。運動会でダンスして、楽しかったからです。」</p> <p>-----</p> <p>「丹小魂（組み体操）です。」</p> <p>「丹小魂に賛成です。5・6年生がやっていてかっこよかったからです。」</p> <p>「丹小魂に賛成です。みんなでやると楽しいと思うからです。」</p> <p>「丹小魂に反対です。できないところがあるからです。」</p> <p>「丹小魂に反対です。組み体操は難しいからです。」</p> <p>「できないところは、簡単にすればいいと思います。」</p> <p>「5・6年生の丹小魂じゃなくて、自分たちで簡単なやつを考えたら大丈夫だと思います。」</p> <p>「やっぱり丹小魂に賛成にします。できないと思っていたけど、簡単なやつなら、みんなでやると楽しいと思うからです。」</p>	<p>〇理由をつけて発表できるように助言する。</p> <p>〇発言者が偏らないように配慮させる。</p> <p>〇自分の考えに固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いをつける必要性について助言する。</p>	<p>・話し合いの進め方や約束を理解して、話し合いをする。</p> <p>・集会でみんなが楽しめることを考えて、発表する。</p> <p>・友達の発言を聞いて、新たな意見や折衷案を考えて、発言する。</p> <p>(思考力・言葉による伝え合い)</p>
<p>〇はしら2：盛り上げる工夫</p> <p>「応援をしたらいいです。」</p>	<p>〇集会をイメージさせ、どんなことをすると盛り上がるか</p>	<p>・集会をイメージし、楽しくする工夫を考える。</p>



<p>「音楽をかけたらいいと思います。」 「メダルをつかって、あげたらいいと思います。」 「プログラムです。」</p>	<p>を考えさせる。</p>  	<p>(思考力)</p>
<p>○はしら3：役割分担 「はじめの言葉です。」 「おわりの言葉です。」 「司会がいます。」 ○順番に名前カードをやりたいところへはる。</p>	 <p>○役割の人数が偏らないように配慮する。</p>	<p>・集会をイメージし、自分の役割を決める。 (自立心)</p> 
<p>○決まったことを確認する。 ○話し合いを振り返って、よかったことなどの感想を伝え合う。 ○先生の話聞く。</p>	<p>○相互評価できるように助言する。 ○子どもの振り返りでは出てこなかった提案理由や建設的な発言を振り返り、司会者グループへのねぎらいを言う。 ○今後の課題を伝え、事後の集会への見通しをもたせる声かけをする。</p>	<p>・友達の良かった点などについて、相互評価できる。 (協同性)</p> 

(成果と課題)

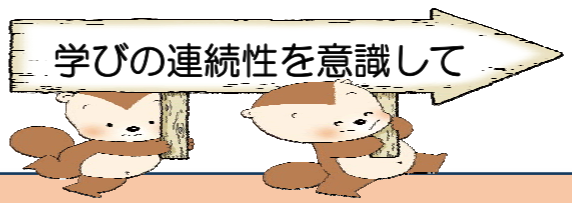
1学期から学級会での話し合い活動に取り組み、学級会への流れ（自分の思いや願いを議題カードに書く→議題箱へ入れる→司会者グループが提案理由を基に議題を決める→話し合い）を理解し子どもたちは意欲的に活動している。輪番制の司会者グループが学級の議題を決めて計画し、みんなで意見を出し合い、話し合いで内容が決定されていく活動は、子どもたちにとって関心が強く、楽しんでいる。

話し合いが充実する手立てとして、司会進行の原稿や黒板掲示用の短冊等の環境を整え、基本となる話形や話し方、聞き方について指導すると共にそのポイントを教室に掲示している。学級会の進め方や約束ごとについては理解しているものの、相手に伝わる声の大きさや相手を意識した聞き方については課題が残る。しかし、学級会の回数を重ねるごとに自分のやりたいことに固執することが減り、友達の意見を聞いて自分の意見を変えるなど、折り合いをつけた話し合いができるようになってきた。また、話し合いで決まった活動に向け、友達と協力して自分の役割を果たす姿が見られる。準備や集会活動でも、回を重ねるごとに趣向を凝らした活動が展開されている。

学校全体でも縦割り班活動や全校集会後のメッセージカードの交流などに取り組み、互いのよさを知る機会を多く持っている。そのことが、1年生にとっては高学年への憧れが増し、自分たちでもやってみようとして次への活動意欲につながっていると考える。

子どもの主体的な活動を中心とした幼小接続 ～聴く力、伝える力をつないで～

天理市立丹波市幼稚園 天理市立丹波市小学校

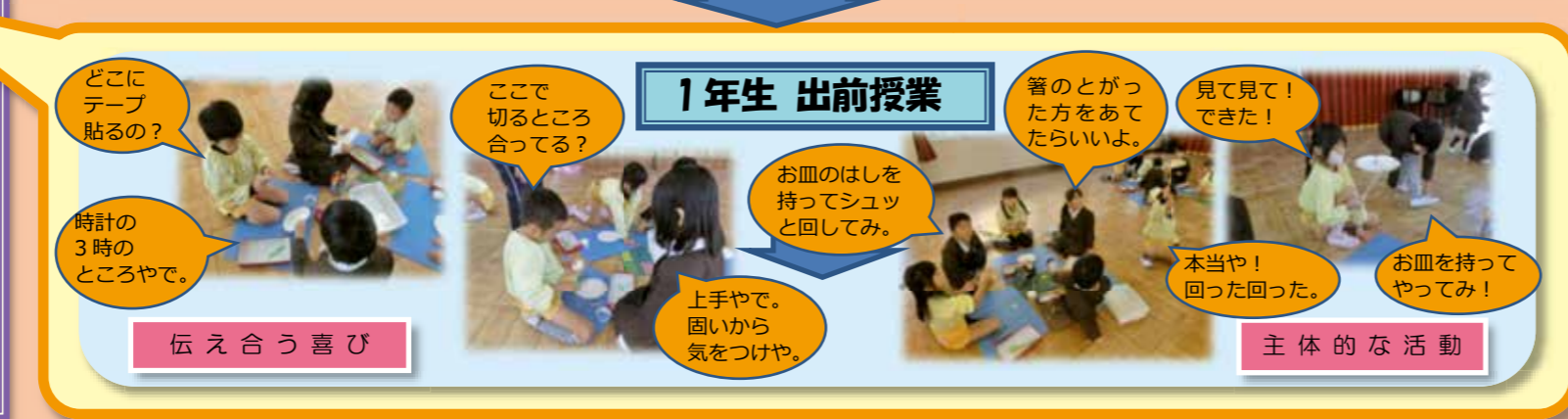
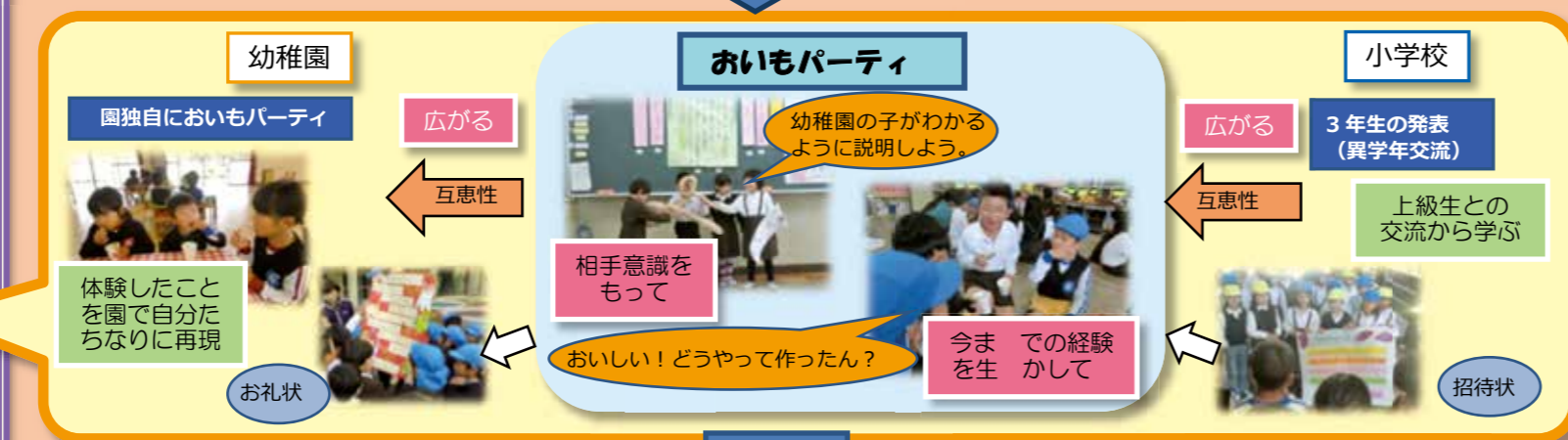


子どものつばやきから広がる幼小交流

- ◎ 幼小のつながりを意識した交流へ。
- ◎ 子どものつばやきを大切に、「こんなことができれば楽しい」を実現させる交流へ。

幼小連携年間計画

- 4月 出前保育 (幼稚園と保育所の元担任と1年生)
- 4・5月 授業参観 (幼・保の教職員と1年生)
- 6月 保育参観 (園児と小学校の教員) **カレーパーティ** (園児と1年生)
- 7月 プール開放 (園児と小学校の教員)
- 8月 教職員合同研修 (幼小の教職員交流)
- 9月 夏休みの作品展見学 (園児と2年生) **運動会** (幼・保の園児と1年生)
- 10月 **おもいパーティ** (園児と1年生)
- 11月 音楽会演奏披露 (園児と4年生) **出前授業** (園児と1年生)
- 1月 たこあげ交流 (幼・保の園児と5年生) **体験入学** (入学予定園児と1年生)
- 2月 教職員合同研修 (講師を招いて講演会) **給食体験** (園児と5年生)
- 3月 出前授業 (幼・保の園児と小学校の教員)



経験から広がる幼小のつながり

主体性を育む話し合い活動

◎ 聴く力・伝える力を育て、話し合い活動を通して、主体性を育てる。

〈幼稚園での話し合い活動〉

- リレーの話から… 板書を通しての活動を取り入れる。
- ホワイトボードの活用



名札があると便利!



速い子と遅い子が順番に走ったらどう?

友達のことを聞いて考え、自分の意見も安心して伝えることができました。また、みんなでイメージを共有することで、目的意識・相手意識をもって活動できた。

〈小学校での話し合い活動〉

- 学級会では、子どもから出た課題について話し合う。
- 司会・運営も自分たちで行う。



ランドセルじゃんけんに賛成です。理由はみんなが笑顔になれるからです。



どんなさつまいも料理知ってる?

子どものつばやきから偶発的な交流が生まれ、親近感が深まった。つばやきをひろうことで、どの子どももワクワクしながら活動し、意欲的・主体的に取り組むことができた。

【鈴木先生のコメント】
子どものつばやきには、一人一人の思いが詰まっています。教員や保育者から与えられた活動ではなく、本当に自分でしたい活動としての交流ができたのが素晴らしいですね。そこには相手を思いやる気持ち、他者の思いを聴こうとする意識、何かを伝えたいという思いが生まれています。園でもホワイトボードを活用するなど、思いを形にする努力がなされていて、小学校でのコミュニケーション力の育成につながっています。そのためには先生方同士の話し合いが大切であることが分かります。つばやきから主体性へ、そのコツを積み上げていってください。

子どものつばやきをひろう

○ 遊びや学習場面で、子どもが思いついたことやつばやいたことを指導者が受け止め、目的意識をもって実現できるように支援していく。

聴く力・伝える力を育てる

○ 話をする人の方を見て、その人が何を言いたいのか考えながら聴いたり、自分が考えたことや思ったことを相手に分かるように伝えたりできるようにする。

ポイント

一人一人に居場所があり、どの子どもも活躍できる。
達成感を味わい、自信をつけて、自ら学ぶ子どもを育てる。

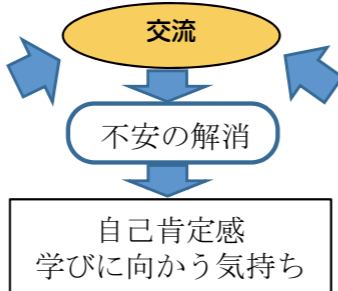
取組の成果と課題

- * 合同研修を重ね、幼稚園教育と小学校教育のカリキュラムの違いを理解することで、子どもの発達、幼児理解を踏まえた授業内容を工夫することができました。
- * 自分たちの意見から楽しい交流ができたことで、1年生も園児も自信をもつことができました。園児にとっては、小学校への期待感が高まるとともに、就学への不安が軽減しました。
- * 幼小接続期にあたる年長児・1年生担任をどの教職員でも担当できるように、更に研修を重ねます。

「ワクワク ドキドキ 小学校」 ～知りたい・伝えたい・つながりたい～ 宇陀市立榛原東幼稚園 宇陀市立榛原東小学校

幼稚園生活の中で、自分のしたいことを見付け、存分に遊ぶ幼児の姿を小学校生活の中でも見られるようにと願っている。しかし、幼児は漠然とした不安を抱えていることが分かった。本市では、幼児の不安感を糸口に交流を組み立て、幼小接続に取り組んだ。

幼児の小学校に対する漠然とした不安
・給食の時間が短いからどうしよう
・学校まで歩いて行けるか心配
・男の人がたくさんいるからドキドキする
・何か分からないけど不安



保護者の不安
・登下校について
・友達関係について
・小学校生活について
・給食について



小学校教員の園見学

「幼稚園って、どんなところ？」
幼稚園の教育を知ることが、子どもたちへの支援のヒントとなった。



小学校探検

「6年生ってすごい！」
知らないことがいっぱい。
もっともっと知りたい！
私もやってみたい。



小学校の運動会

小学校の運動会では5年生と手をつないでスタートラインへ。
来年も、小学校で出会う。



合同活動（秋みつけ）

そっと手をつないでくれる1年生の優しさに触れ、不安が安心感へと変わる。

「一緒に降りよう。」
人の役に立てたという喜びを味わった。

不安から期待へ

小学校の秘密がいっぱい。
小学校への期待が膨らみ、幼稚園との違いに気付く。



小学校紹介カード

園児が1年生からもらった校内の写真を見ながら、自分たちの探検したい教室について、話し合う機会を大切にする。そのことで、幼児自らが主体的に交流会に参加できるようになった。



保護者交流会

交流内容の発信や小学校についての情報交流が、保護者の不安軽減につながった。

「小学校って、どんなところ？」
幼児の期待や不安を知ることが大切！小学校に行くことによって、小学校がどんなところか分かってきた。



小学校訪問



幼稚園訪問
(小学校の紹介)

相手意識をもった交流にすることで伝えたい気持ちが増した。

取組の成果と課題

○交流を通して自己肯定感を高める

幼児の姿から、小学校入学に向けての不安が高いことに着目し、幼小の交流のねらいを小学校について知ること、相手意識をもち、主体的に取り組むこととし、活動を設定した。継続して交流するためには、話し合いの機会を多くもつことが大切であり、事後の話し合いの中で、次の交流のアイデアが生まれてくる。交流会のねらいが明確になり、互恵的・継続的な交流が実現する。

○保護者の不安感を軽減する

子ども同様、保護者の不安も大きいことが分かった。保護者の不安を取り除くために、先輩保護者との交流会の開催や『幼小連携だより』の発行をした。子どもが小学校生活に期待をもっている姿から、小学校での生活を見通しながら成長を見守ることができるようになり、保護者の期待につなげることができた。

○地域の幼・保で共に取り組む

市内公・私立保育園・幼稚園5歳児交流会を行っている。5歳児が互いを知り合うことで入学時に早く親しむことができる。また、教職員も、入学までに育てたい力を共有することができた。

○学び方を知り、教育をつなぐ

幼稚園や保育所に小学校の教員が訪れる中で、教育の中で大切にしているものが見えてきた。幼稚園教育を知ることが小学校入学時の姿やその時期の教育の方法を考えることにつながり、互いの教育をつなぐ糸口を見付けることができた。

【鈴木先生のコメント】

子どもたちの不安を受け止めそれを期待につなげている実践です。実は、子どもたちだけでなく、保護者も不安を抱えているのです。そこを丁寧にほぐしていくことで、保護者と子ども・先生が一体となって連携を進められたのが、この実践の優れたところ。夏休みに小学校の先生が園訪問をしたり、保幼でお互いに交流したりして、先生方が「つながりたい！」という思いを行動に移した。その結果、皆が安心できる環境が整ってきたのではないのでしょうか。保護者への関わりについて、これからも示唆をお願いします。



幼小連携だより